

特集
就職先はここだ！
働きたい企業を紹介！

破天荒な人生から生まれた

独自の経営感覚で未来を切り拓く



株式会社 兼建

株式会社 兼建は、鉄骨葺、重量葺、足場工事、配管、各種溶接など、さまざまな特殊技術を駆使してプラントの建設・解体工事を一手に引き受ける、プロフェッショナル集団だ。飛躍的な成長を続ける同社のリーダー・兼重 繭史代表取締役社長に、話を伺った。

- 代表者／兼重 繭史 ●電話／093-451-9000 ●設立／平成23年2月
- 所在地／〒803-0274 福岡県北九州市小倉南区長尾1丁目9-31
- 業 種／プラント工事(重量物・解体・配管・足場・他)、メンテナンス
- 公式サイト／<http://www.kitakyusyu-kaneken.jp/>

株式会社 兼建
代表取締役 兼重 繭史 氏

独立、破たん、そして再出発までの日々

「とにかく堅苦しいのが苦手やし、隠し事が嫌いやけん、何でも話す。そのかわり、ありのまま書いてよ」と兼重社長は開口一番、そう言い放った。いつもは作業服しか着ないが、この日は取材だからと渋々ワイシャツ姿。ざつとぼらん口調で、これまでの経緯を語ってくれた。

バイクが好きで、かなりちゃんちゃん青春時代を送った。高校を卒業して就職した大手企業を一日で辞め、知り合いに紹介されて就いたのが、鳶の仕事だった。なめられてたまるかと必死に仕事を覚え、21歳で独立した。15人ほどの仲間とともに安い工賃の仕事でも請け負って、とにかくがむしゃらに働いた。しかし8年後、事業は破たんする。「ただがむしゃらに働くだけで、経営者やなかったね。悔しいやら、情けないやら、申し訳ないやら。自己嫌悪で2年間ずっと引きこもった」と当時を振り

返る。失踪や自死も考えたが、「鳶の仕事がしたい」と頼つて来た息子の友達の言葉がきっかけで、もう一度、やり直す気になった。働いて、負債を返済する。ようやく次の目標ができ、それならと仕事を紹介され、少年と二人で千葉の現場へ向かった。二人で懸命に働き、1年間で1000万円を返済。そこで、経営の何たるかに気づいた。その後、もう一人少年が加わって3人で働き、2年間で負債をほぼ返済することができた。結果的に5年間で千葉で過ごし、帰郷して屋号の「兼建」を法人化、今日に至る。

身近な出来事に学ぶ 生きる指針を確立

帰郷して間もなく、夢を見た。紫の着物を着た老婦人が「これがあればすべてうまくいく」と差し出したのは、見たことも無い美しい硬貨。夢から覚め、苦笑した。しかし、その日、何気なく受け取った釣銭に夢を見たあの硬貨があった。500円の記念硬貨だった。

同じ時期、妻から渡されたのは、ヒンドゥー教の神・ガネーシヤがテーマの本。夢中で読み進めるうちに、心の奥で感じていたことと共鳴した。心豊かに生きることの大切さ。かつて自分の中にあった、さまざまな負の感情が洗い流されていくようだった。

そんないくつかのエピソードを経て、「隠し事をしない」「人が喜ぶ仕事をする」「生きることを楽しむ」という、シンプルだが明確な指針が定まった。以来、困ることは一切なくなった。仲間にも恵まれ、仕事に恵まれ、業績は伸び続けている。目に見えない不可思議に頼ることはしない。が、投げかけられた示唆を受け止め、素直に考え、学びを得るうちに想像力が豊かになった。それが仕事にも反映し、新しい出会いに次々とつながっている。

仕事の仕事と呼び 信頼へとつながる好循環

即断即決は、この業界では絶対だ。迷っていたら、10分後には他社に仕事回る。仲間を信じ、

相手を信じ、自分を信じて判断する。受けた仕事には、相手の期待以上の成果を出す。そのスタンスは、これまでも、これからも変わらない。

そんな仕事ぶりを、いつも誰かが見ていてくれた。他社が手を出せない仕事やM&Aの案件が、次々に転がり込んでくる。この1〜2年でグループ化した関連会社である内装工事業の株式会社フクダテクノスと、一般産業用機械製造の株式会社兼機との新しいビジネススキームで、さらに仕事の要請が増えた。そうやって、経験値は着実に上がった。業績を伸ばし、利益を得て、社会に還元する。そのサイクルが回るようになってから、業績はさらに上がった。

かつてちゃんちゃだった頃と同じように、兼重社長のまわりにはいつも人が集ってくる。あの頃と違うのは、仲間の力を社会に役立て、関わる人すべてに喜びをもたらす力が格段に大きくなったことだ。どんな未来を切り拓くのか、同社の展開から目が離せない。